

☆ 世 界

綿 花 **インドの通貨危機、世界の綿花市場への影響は限定的**

国際綿花諮問委員会 (ICAC) によると、2016/17 年、世界の綿花は需要減の生産増ながら、価格は依然として上昇しており、8～11 月の平均は 79 トン/ポンドとなった。

2015/16 年は予期せぬ生産減により、世界および中国以外の合計在庫の双方が 14% 減となり、昨シーズンの価格上昇につながった。2016/17 年の収穫は世界の市場に限られた量しか出回り始めていないため、価格が高いままになっている。さらに、世界最大の生産国であり世界第 2 の輸出国であるインドが、通貨危機になり、それも綿花価格上昇の状況を一時的にもたらしめている。農家への支払いも含め、同国の経済はキャッシュベースで循環しているため、新紙幣の発行が追いつかないゆえの紙幣不足が通貨危機を招いた。その影響を受けて、綿花販売や港への出荷は遅れ、国内市場への供給不足や海外市場への供給削減が生じた。ただ、通貨危機の影響は限定的となる見通しで、近いうちに沈静化に向かうとみられる。

インド産綿花の海外市場への供給が遅れていることにより、2016/17 年、インドの綿花輸出は 34% 減の 82 万 5,000 トンとなり、他国がその恩恵を受けて当分の間輸出が増加すると見込まれる。

・バングラデシュ…国内ミル消費が継続的に伸びていることから、2016/17 年は 2 シーズン連続で世界最大の綿花輸入国となる見込みで、輸入は 1% 増の 140 万トンと予想されている。当面の間は、インドから輸入していた分を他国から補う可能性がある。

・米国…輸出が 29% 増の 260 万トンとなり、引き続き世界最大の輸出国となる予想。

・オーストラリア…大幅な生産増にともない、輸出が 21% 増の 75 万トンとなる見通し。

・その他…ブルキナファソとマリも、生産増により、輸出増加が見込まれる。世界第 6 位の綿花輸出国であるブルキナファソは 13% 増の 29 万 5,000 トン、世界第 7 位の綿花輸出国であるマリは 17% 増の 25 万 5,000 トンとなる予想。どちらも早急に海外市場に提供できれば、インド産綿花の代替となり得る。

世界の綿花消費は、昨シーズンは 1% 減の減少となったが、2016/17 年は 2,420 万トンと横ばいの見通し。消費の上位 3 カ国である中国・インド・パキスタンは、それぞれ 740 万トン、520 万トン、230 万トンと横ばいの予想。

綿花高により中国からの綿糸需要が低下したことで、インドとパキスタンの綿花消費があまり伸びなかった。

2016/17年、世界の綿花生産は7%増の2,250万トンとなる予想。インドは、作付面積が8%減の1,100万ヘクタール未満となるものの、生産は2015/16年から変わらず580万トン。平均イールドは9%増の526kg/ヘクタール。中国の生産は4%減の460万トン、米国は24%増の350万トン、パキスタンは24%増の190万トン、ブラジルは8%増の140万トンとなる見通し。

2016/17年、世界の綿花消費はほぼ横ばいであるが、世界の生産を170万トン上回ると予想され、その場合価格の安定にもつながる。期末在庫は9%減の1,740万トンになると見込まれるが、それは予想される消費の72%に相当する。

世界の綿花需給見通し

(100万トン)

	2014/15	2015/16	2016/17
生産	26.20	21.03	22.48
消費	24.47	24.17	24.20
輸入	7.78	7.46	7.64
輸出	7.81	7.53	7.64
期末在庫	22.32	19.10	17.38
価格*	71	70*	75

*Cotlook A インデックス(セント/ポンド)価格は、中国を除く世界の在庫率の見通し、中国の綿花輸入見通しをもとに推計した。